

# 企画展「カエデ&もみじ」－多様なかたち、山のにぎわい－

指村奈穂子・吉田考造

カエデのなかまは、美しく紅葉し山を彩ることから、昔より、日本人に大変愛されてきた植物で、利用の面からも身近な植物です。地球上には129種のカエデが、主に北半球に分布しています。このうち27種が日本に、そのうち21種が埼玉県に分布しており、埼玉県、特に秩父は、カエデの種類が豊富です。この展示では、以下のような項目で、カエデをさまざまな視点から紹介します。グローバルな視点から埼玉県の自然を位置づけ、身近な自然から生物多様性について考えてみましょう。



- ・カエデ・もみじとは？
- ・カエデの仲間
- ・カエデの花と種子
- ・埼玉のカエデ大集合
- ・カエデの文化
- ・カエデの利用
- ・紅葉のメカニズム
- ・埼玉県のカエデの天然記念物
- ・カエデ似たもの同士
- ・カエデの新たな活用を目指して
- ・屏風「高雄観楓図」
- ・紅葉の名所、写真
- ・広辞苑の「紅葉〇〇」

## 見どころ1：カエデの仲間

カエデ科\*の祖先は、今から約6000万年前に、北極圏周辺で、ムクロジ科から分かれたといわれています。その後気候の温暖化に伴って南下

し、約4000万年前までには、北アメリカ西部や東アジア東北部を中心としてさまざまに多様化しました。約3000万年前には、カエデ属の一部は北アメリカから北大西洋陸繋を通じてヨーロッパへ入り、東アジアと北アメリカはベーリング陸橋を通じて多くのカエデが交流しました（棚井1978）。

たとえば、ハナノキ節は北アメリカで約4500万年前に出現し、約3500万年前までに東アジアへ、約2500万年前までにヨーロッパに分布を広げましたが、ヨーロッパでは約500万年前に絶滅しました。

またイロハモミジ節は、東アジアで約2500万年前に出現し、約1500万年前にヨーロッパへ分布を広げたが、その後絶滅しました。約300万年前に東アジアからベーリング地域を経て北アメリカに入ったと考えられています。

これらのカエデの分化については化石から調べられており、近年の遺伝分析による分子系統との共通点や相違点が議論されているところです（Grimm et al. 2006）。

※ムクロジ科に含める分類体系もある。



## みどころ2：カエデの花

カエデの花を見たことはありますか？あまり目立たないですが、カエデにも花が咲きます。小さな花を見てみると、おしべとめしべのある両性花（おしべが機能していないこともある）とおしべしかない雄花があることがわかります。その花のつき方は種によって様々で、雄花と雌花が別の株に咲く種（ウリハダカエデなど）両性花と雄花がひとつの株に咲く種（イロハモミジなど）、その両方のタイプがみられる種（ミネカエデなど）が